

くらしのなかに人権を

# Heart to Heart

心と心の通いあい

人権啓発パンフレット



人美創学伝心

奈良市

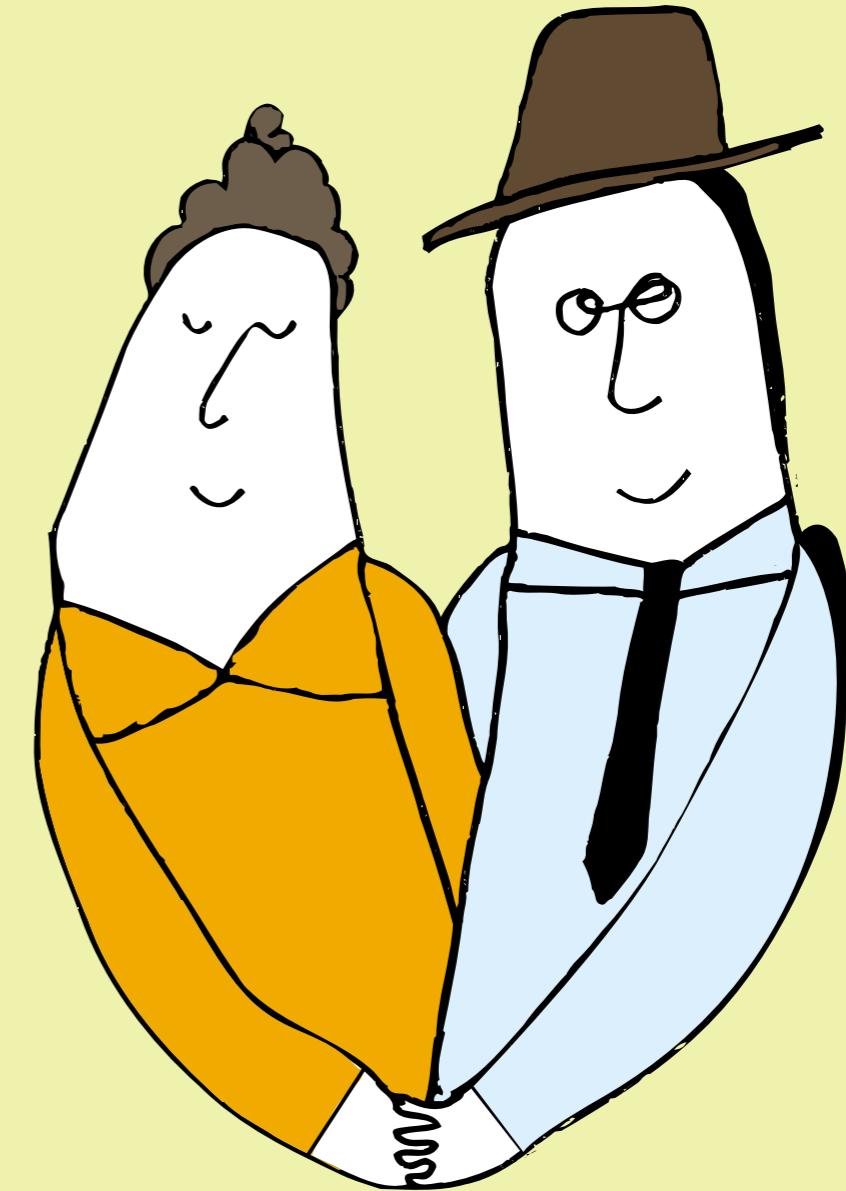
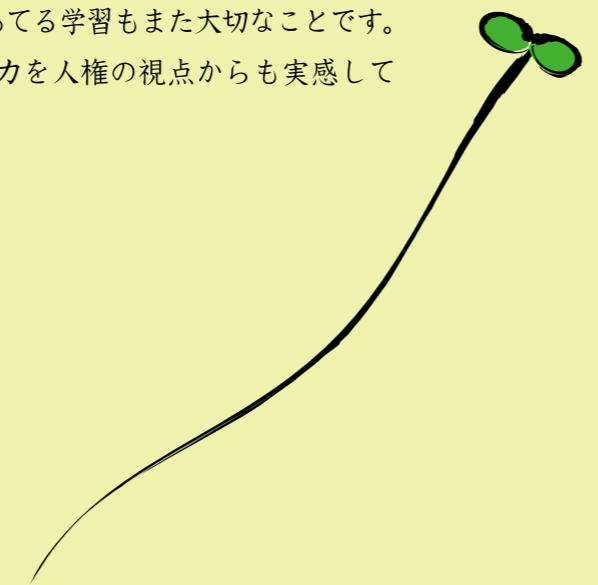
# な ら 寧 楽 に 学 び 現 在 を 見 つ め 未 來 を 考 え る。

あおによし 寧樂の京師は咲く花の薫ふが如く 今さかりなり

歌にも詠まれた時代から奈良の民衆が守り続けてきた「古都奈良の文化遺産」が、世界遺産に登録されたのは1998(平成10)年のことでした。

8遺産全体で物語っている奈良の歴史や文化の特質は、中国・朝鮮半島との文化交流や、日本の国家や文化の基礎が整った奈良時代の様子を伝えていること、神道や仏教など日本人の信仰が年中行事を通じて市民の暮らしの中に生きづけていることなどではないでしょうか。

遷都1300年がまもなく訪れようとしています。これを機会に、奈良に住む私たち一人ひとりが「世界遺産のあるまち」「国際文化観光都市」として知っていただくことはもちろんですが、現在の奈良を支えてきた多くの名もない民衆の足跡に、光をあてる学習もまた大切なことです。奈良市民として奈良の歴史や文化に関心をよせ、奈良の魅力を人権の視点からも実感していただけるよう、この冊子を作りました。



東大寺



興福寺



春日大社



元興寺



藥師寺



唐招提寺

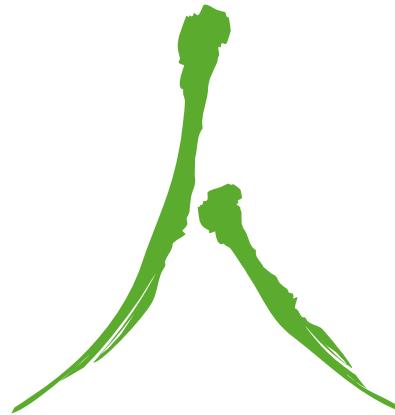


平城宮跡



春日山原始林



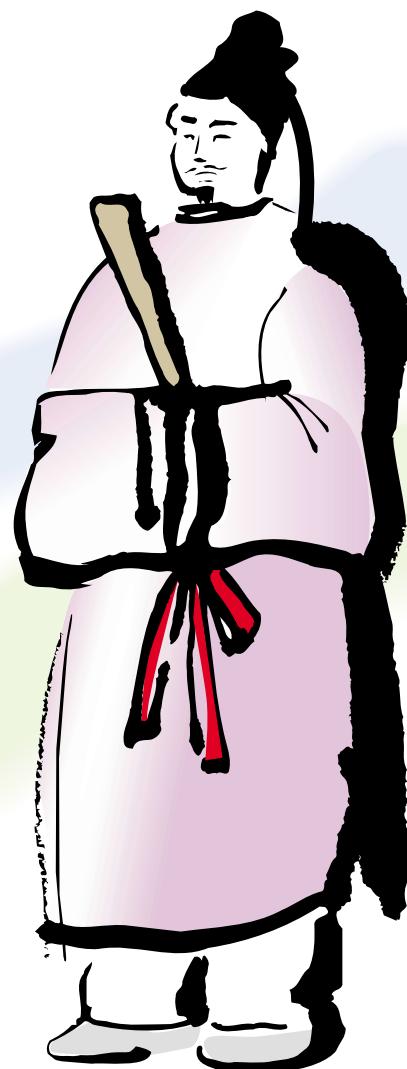


# 人の街

## human

平城京遷都のプロデューサー  
藤原不比等、大仏殿建立や復興に  
尽力した行基・重源・公慶・隆光  
などの僧侶たち、柳生新陰流の  
創始者柳宗嚴、宝蔵院槍術の  
創始者珠光など、奈良のまちに関わる人は  
たくさんいます。

しかし、歴史上に名を残す人たち  
だけが奈良の文化をつくりだした  
わけではありません。名も無き  
多くの民衆の力がまちをつくり、  
奈良のまちの風土や文化をつく  
ってきたのです。



人がつくるまち 人をつくるまち  
お互いを認め合い、尊重することから  
素敵なまちと人が生まれる。

# 美しい街

## beautiful

鎌倉幕府を開いた源頼朝は、国ご  
とに守護をおいて自治にあたらせ  
ましたが、大和には守護をおかげ、  
大和の守護は興福寺にまかされた  
形になりました。こうして大和は  
朝廷や幕府の力が及ばない社寺の  
国となり、社寺を中心に「まち」が  
できるようになったのです。

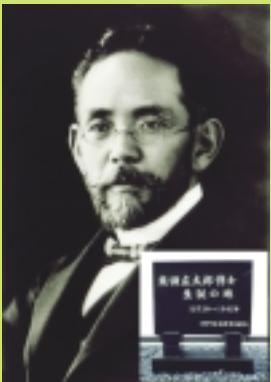
奈良を彩る建造物や伝統行事は、  
社寺とともに民衆によって支えられ、  
守られ、現在の私たちに託されて  
います。

奈良を彩る。  
美しい建造物、そして伝統行事。  
それは悠久の歴史のなかで  
生まれ、守られ、伝えられる。



## 人権を学ぶ

### 米田庄太郎



1873(明治6)年、奈良市で誕生しました。  
京都帝国大学教授となり、研究を進め  
日本の社会学の確立に尽力しました。  
日本の社会学の父とも呼ばれる米田  
博士は、奈良市民が本来誇りとするべき  
人物であるはずなのに、一般に知られて  
いないのは何故なのでしょう。

関連スポット

松井庄五郎頌徳碑

### 川路聖謨と植桜楓之碑



幕末の奈良奉行。  
奈良の町のために尽くした業績は数多く  
あります。よく知られているのは、なんと言って  
も現在の奈良公園の基礎を作ったこと。  
そして、奈良奉行時代の記録「寧府記事」は、  
江戸期の奈良を知る貴重な歴史資料です。  
そこには、当時の被差別民衆との交流も  
記されています。

関連スポット

中村直三農功之碑

## 人権を学ぶ

### 名勝大乗院庭園



▲奈良交通天理方面行き  
「福智院町」バス停下車すぐ

中世の奈良や京都の名園といわ  
れる多くの庭園は、山水河原者と  
呼ばれた当時の被差別の立場  
にあった人々によって造されました。  
この庭園は、当時の庭造りの  
第一人者である善阿弥がたずさ  
わった、奈良で唯一の庭園遺構  
として貴重なものです。

### 影向の松と「おん祭り」



▲近鉄奈良駅から東南へ約1km  
写真提供:奈良市観光協会

1136(保延2)年以来続いている  
春日若宮おん祭りのハイライト  
であるお渡り式(12月17日)の  
重要な儀式、松の下式がここで  
行われます。そして、様々な芸能  
団体が一定の所作を演じてから  
お旅所へと向かいます。  
神事やお祭りとキヨメ役について  
考えてみましょう。

# 創る街

create

奈良晒・鹿角細工・古楽面・漆器・蚊帳・瓦・墨・筆・人形・団扇など、先人たちは、様々な伝統工芸を生み、育んできました。

時代が流れた現在も、その技法やもの造りにかける熱い思いは変わることなく、脈々と受け継がれています。異文化交流をはじめ身分や立場を超えた人々が伝え残してくれた技術・知識は、日本文化の発展に大きな役割を果たしました。



## 人権を学ぶ街

林神社



▲近鉄奈良駅から南西へ約0.25km

関連スポット

辛国神社

南北朝の時代に、中国から渡来し、中国のマントウ（饅頭）の製法を伝えた林淨因が祀られています。饅頭の製法を伝えたことから「饅頭の神さま」としてよく知られています。4月19日には饅頭祭りが行われます。また、淨因の子孫である宋二は、饅頭屋のかたわらいろは引きの百科事典「節用集」を発刊したことから印刷業者が集まって「節用集」祭りも行われます。

## 製墨（南都の伝統産業）



墨は奈良の代表的な伝統産業です。奈良の墨作りは、室町時代に興福寺で灯明の煤をとり、膠を混ぜて作ったものに始まるといいます。こうしてつくられた油煙墨は、奈良の名産品となりました。墨作りの重要な材料が膠です。膠は煤を固め墨を形作るとともに、墨の粘りや伸び具合をよくして書いたときの墨色を際立たせる役割をします。この墨作りになくてはならない膠は、被差別部落の産業であり、膠なくして日本の書道や絵画文化が花開くことはなかったのです。

# 学ぶ街

study

「阿字万字町・大豆山突抜町」など奈良には不思議な町名がたくさんあります。それぞれの町の名前には由来があります。

元興寺の鬼伝説に由来する「不審ヶ辻子町」。

奈良時代の僧、眩坊の伝説に由来する「大豆山町」。

ところで辻子や突抜って何なのでしょう。町の名前の由来を知ることで、まちへの愛着と誇りが芽生えてくるのです。

まちに残る歴史の香り  
ふと町名の由来を考える。  
そんなことから、暮らすまちへの愛着と誇りが、芽生えてくる。



## 人権を学ぶ街

### 陰陽町と鎮宅靈符神社



▲奈良交通ならまちバス「北風呂町」下車 南へ約0.2km

ここ陰陽町では、暦作りが行われてきました。江戸時代には奈良の土産の一つとして、奈良暦が有名でした。この暦作りに関わった人々が、特別な能力を持つとされた陰陽師なのです。鎮宅靈符神社は、史書『元要記』（大和文華館所蔵）に「1117（永久5年）に南都四家の陰陽師がこれを祀った」とあり、記録に残る最も古い靈符神社です。

### 北・南風呂町と悲田院



▲阿弥陀寺の境内にある悲田院  
▲奈良交通ならまちバス「北風呂町」下車 南東へすぐ

中世この辺りに浄土寺があり、そこには誰でも入れるという地下風呂（銭湯）があったことが分かっています。この銭湯があったことから風呂町となったと言う説もあります。また、この周辺には忍性の伝承が残っており、悲田院があったことから風呂も含めて、何らかの福祉事業が行われた場所であったと思われます。

# 伝 える街

## tradition

「もとの黙阿弥」は大和の戦国大名、筒井順慶の父、順昭にまつわる伝承から生まれました。「尋があく」は、春日若宮おん祭りの行事に由来します。こうした言葉が、現在でも日常会話に残り伝えられています。また徳川家康に関わる伝説や、歌舞伎でも演じられる中将姫の伝説などでも伝えられています。奈良には長い歴史と豊かな自然、そして人々の営みがあり、それらが奈良固有の風土をつくり出してきました。そこには信仰や習俗があり、人々の祈り、あるいは喜びや悲しみの表現として様々な伝説が生まれ、伝統芸能が形成されてきました。



## 人権を学ぶ

### 菩提院大御堂



▲近鉄奈良駅から東南へ約0.8km

ここには、「三作石子詰め」の伝承があります。これは「大垣刑」と呼ばれる奈良独特の刑罰を背景にした伝承です。また、鹿と一緒に三作少年が、石子詰めにされたということから児童の安全を祈願するため多くの人々がここを訪れたそうです。なお、鹿に紅葉の組み合わせはここからはじまるときています。奈良の鹿について考えてみましょう。

### 興福寺南大門跡般若の芝



▲近鉄奈良駅から東南へ約0.6km

ここは、毎年5月11・12日の両日開催される薪御能の舞台です。能は良く知られているように、大和猿楽から出た觀阿弥・世阿弥によって大成されました。この時代の猿楽師は、ある貴族の日記に「乞食の所業」とあるように蔑視される存在でした。

関連スポット

奈良豆比古神社

## 人権を学ぶ

### 北山十八間戸



▲奈良交通青山住宅方面行き「東之阪町」バス停下車 西へ約0.2km

わが国最古の救療施設として、今や全国的に有名です。このすぐ北にある般若寺と合わせて、この周辺では律宗僧の觀尊・忍性が病人・貧民救済を行った史実もあり、福祉事業の先駆けとなった所なのです。西の京には西山光明院という施設もありましたが、大正7年に最後の患者さんが亡くなった後に焼却されてしまいました。

関連スポット

般若寺

# 心 の 街

## heart

人と人の心をつなぐもの。それは慈しみや思いやり。お互いが理解し合い、認め合うことで、人はつながっていきます。奈良には觀尊・忍性に代表される病人救済・貧民救済事業が伝えられています。私たちのまち奈良は、歴史的にも人にもやさしいまちなのです。全ての人々がわだかまりなく支え合い、助け合い、認め合う、そんな共生の社会を実現していくのも奈良の役割ではないでしょうか？



21世紀を「平和の世纪」に。心から心へ、命から命へ、愛情と豊かさをつなぎ、思いやりのある社会をつくりあげる。

### 飛鳥山の地蔵



▲奈良交通天理方面行き「奈良ホテル」バス停下車すぐ

このお地蔵さんは、「白馬に乗ってお産の手伝いに出かける」という言い伝えがあります。生命の誕生という神秘的な出来事に、誰もがお産の無事を願う気持ちからこのお地蔵さんの謂れとなつたのでしょう。私たちの身近にあるお地蔵さんの謂れや、お地蔵さんにつながる話を調べていくと、そこには命や福祉、そして人権というキーワードに出会います。どこかでお地蔵さんに出会ったとき、その謂れやまつわる話から、人権について考えてみてください。

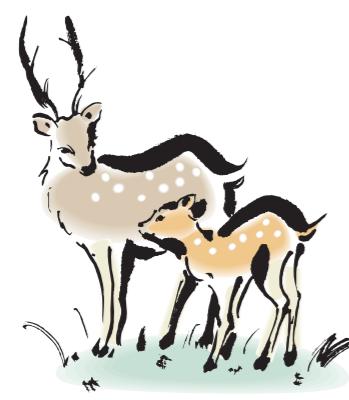
# 奈良の街

## history

奈良市には、世界遺産群の他にも有名な観光スポットが多数あります。そして、その中には地域に根差した「人権ゆかりの地」もたくさん存在しています。

「人権ゆかりの地」を学ぶことは、地域の中にある「川・木・神社・地蔵・祭り」などを取りあげ、それらを中心として培われてきた民俗や、文化・芸能と史実に即した歴史を明らかにすることです。

また、被差別民衆の歴史については、差別と貧困、あるいは意味なき存在とでしか語られませんでしたが近年、たくましく芸能や文化と歴史を創造してきた存在として、光り輝く部分が語られるようになってきました。私たちは、「古都奈良」の歴史をふりかえる中から、人権について学び、考え、共生の社会を築いていきましょう。



奈良は歴史のまち、人権のまち。  
歴史を知ることは人権を知ること。  
一人ひとりが人権を学ぶことで、  
「心豊かなまち」奈良市をつくっていきましょう。





人

美

創

奈良市人権教育・啓発推進本部  
奈良市人権啓発センター

〒630-8106 奈良市佐保台西町114番地の3  
TEL.0742-72-1510 FAX.0742-72-1511

学

伝

心

